

真理と信仰 目次⁽¹⁰⁾

<u>I</u>	<u>1970年代の講演録</u>	1
1-1	悔い給う神 <small>く たも</small>	2
1-2	何よりも真理を愛した人	8
1-3	平民内村鑑三 <small>うちむらかんぞう</small>	14
1-4	純粹なる福音	23
1-5	真理の極致なる福音 <small>きよくち</small>	28
1-6	ギリシャ文化とキリスト教	36
1-7	科学万能思想の誤り	40
1-8	キリスト教の真髓 <small>しんずい</small>	46
	註・I章	51
<u>II</u>	<u>1930年代～1950年代の文章</u>	60
2-1	優れて大なる能力	61
2-2	事実を基とする信仰	63
2-3	科学の本質と信仰	66
2-4	原子爆弾と電子顕微鏡	81
2-5	四次元空間の話と三位一体	85
	註・II章	95
<u>III</u>	<u>戦争や平和に関する文章</u>	100
3-1	獄中証言	101
3-2	戦争放棄の光栄	106
3-3	戦争の愚かさ	113
3-4	軍備との戦い	118
	註・III章	122
<u>IV</u>	<u>経済に関する文章</u>	129
4-1	マルクス主義の利と害	130
4-2	経済と道徳	137
4-3	経済成長は神の刑罰	148
4-4	自由主義経済終焉 <small>しゅうえん</small> の時	150
	註・IV章	152

V 教育に関する文章 156

- 5-1 教育の理想 157
- 5-2 学問・教育・信仰 162
- 5-3 今日の教育・ほんとの教育 168
- 註・V章 174

VI 外部メディアに発表した文章など 177

- 6-1 人生読本 178
- 6-2 わたくしの信仰と生活 184
- 6-3 裸の王様の童話 185
- 6-4 処^{しよ}士^し横^{おう}議^ぎ 189
- 6-5 矢^や内^{ない}原^{はら}先生の独立学園訪門 191
- 6-6 矢^や内^{ない}原^{はら}先生の愛 194
- 6-7 メレル先生と私 196
- 6-8 南^{なん}原^{ぼら}先生を懐^{なつ}う 199
- 6-9 南^{なん}原^{ぼら}先生と独立学園 202
- 6-10 内^{うち}村^{むら}鑑^{かん}三^{さん}と奥^{おく}山^{やま}吉^{きち}治^じ 205
- 6-11 諏^す訪^わ熊^{くま}太^た郎^{らう}と内^{うち}村^{むら}先生 211
- 6-12 菊^{きく}竹^{たけ}種^ね次^じさんを悼^{なげ}む 213
- 6-13 三百号に達する「聖^{せい}書^{しょ}の言^{げん}」 218
- 6-14 「聖^{せい}書^{しょ}の日本」^と小^こ国^{こく}伝^{でん}道^{だう} 220
- 註・VI章 221

VII 基督教独立学園に関する文章 231

- 7-1 基督教独立学校創設に際して 232
- 7-2 基督教独立学園の歩^{あゆ}み 234
- 7-3 「独立時報」から 240
 - 7-3-1 真^{まこと}の独立 241
 - 7-3-2 クリスマスの声 243
 - 7-3-3 基督教独立学園の使^{つか}命^{めい} 245
 - 7-3-4 星^{あお}を仰^{あお}ぐ 247
 - 7-3-5 隅^{ぐも}の首^{くび}石^{いし} 248
 - 7-3-6 環^{かん}境^{けい}と教^{きょう}育^{いく}と文^{ぶん}明^{めい} 249
 - 7-3-7 新^{しん}年^{ねん}の希^き望^{ぼう} 250
 - 7-3-8 卒^{そつ}業^{ぎやう}生^{せい}を送^{おく}る言^{げん} 251
 - 7-3-9 罪^{つみ}の本^{ほん}質^{しつ} 253
 - 7-3-10 最^もも貴^{たか}いこ^と 255

7-3-11	新年を迎えて	256	
7-3-12	実践してわかる真理	257	
7-3-13	卒業生を送る辞	258	
7-3-14	新入学生を迎えて	260	
7-3-15	基督教主義私立学校の使命	261	
7-3-16	卒業生を送る辞	263	
7-3-17	創立記念式（第8回）	265	
7-3-18	起工式	266	
7-3-19	矢内原先生講演会の時の挨拶	267	
7-3-20	罪のおそろしさ	268	
7-3-21	献堂について～献堂の祈り	270	
7-3-22	卒業生を送る	272	
7-3-23	回顧十年	273	
7-3-24	開拓者精神	275	
7-3-25	クリスマスの意義	276	
7-3-26	卒業生を送る辞	277	
7-3-27	11周年記念式	278	
7-3-28	夢ではない	280	
7-3-29	献堂式	282	
7-3-30	卒業生を送る辞	284	
7-3-31	火災について	286	
7-3-32	復興感謝式の辞	287	
7-3-33	真の卒業証書	289	
7-3-34	創立記念式に当たりて	291	
7-3-35	1月1日	293	
7-3-36	卒業式の辞	294	
7-3-37	学問の価値	295	
7-3-38	第15回卒業式の辞	297	
7-3-39	学年のはじめに	298	
7-3-40	第17回創立記念式	299	
7-3-41	第18回創立記念式	300	
7-3-42	クリスマスの必然	302	
7-3-43	暴力否定の宣言	304	
7-3-44	第21回入学式の辞	306	
7-3-45	クリスマス	308	
7-3-46	クリスマス式辞	310	
7-3-47	農民と教養	315	

7-3-48	卒業式式辞	317
7-3-49	31期生入学式式辞	321
註・VII章		323
<u>VIII</u>	<u>回顧と前進～旅行記</u>	337
8-1	回顧と前進	338
8-1-1	生い立ち	339
8-1-2	慶応普通部以後	342
8-1-3	柏木の頃	346
8-1-4	小国に住む	361
8-1-5	応召	368
8-1-6	入獄	371
8-1-7	新制高校設立	375
8-1-8	無教会について	383
8-1-9	平和と政治	387
8-1-10	訪ねて下さった先生	391
8-1-11	学校の経営	396
8-1-12	心のふれ合う教育	401
8-2	ささやかにして偉大なるヨーロッパ旅行	405
8-2-1	東へ東への旅	405
8-2-2	北極圏の上空	405
8-2-3	イギリス	405
8-2-4	パリ	407
8-2-5	ライン下り	409
8-2-6	ユングフラウ	410
8-2-7	モンブランとイタリア湖水地方	412
8-2-8	カプリ島とポンペイ遺跡	413
8-2-9	ローマ	414
8-2-10	ギリシャ	415
8-2-11	終わりのことば	418
註・VIII章		419
<u>IX</u>	<u>英語で発表した文章</u>	437
9-1	Merrell-Sensei and I	438
9-2	An Appeal to the American People	441
<u>あとがき、再版に際して</u>		442

◆本書は書籍版では9章までですが、PDF化に際し以下の章を増補しました。

X 「独立時報」に発表された文章 444

10-1	『真理と信仰』刊行前	
10-1-1	学制 80 年	447
10-1-2	修学旅行所感	448
10-1-3	農家二・三男の問題	450
10-1-4	理想達成の途	
	一創立記念式に際して	451
10-1-5	クリスマスを迎えて	452
10-1-6	クリスマスの所感	454
10-1-7	卒業生を送る	455
10-1-8	新年感想	456
10-1-9	クリスマスを迎えて	458
10-1-10	クリスマスを迎えて	460
10-1-11	入学式の辞	461
10-1-12	第 14 回創立記念式	462
10-1-13	クリスマス所感	463
10-1-14	創立満 15 年	465
10-1-15	エホバを恐れることは知識の始めである	466
10-1-16	真理を愛し、求めよ	
	一第 14 期生卒業式式辞	467
10-1-17	第 16 回卒業式の辞	468
10-1-18	第 17 回卒業式の辞	471
10-1-19	第 19 回創立記念式	473
10-1-20	18 回卒業式の辞	475
10-1-21	第 20 回創立記念式	477
10-1-22	23 期入学式の辞	479
10-1-23	第 21 回卒業式	481
10-1-24	第 24 回創立記念式々辞	484
10-1-25	第 29 回創立記念式辞	486
10-1-26	第 28 回卒業式々辞	488
10-2	『真理と信仰』刊行後	
10-2-1	宇宙完成の大経綸	
	エペソ書 3 章 1-13 節研究	490
10-2-2	第 29 回卒業式式辞	496
10-2-3	恐竜と人類	498

10-2-4	畏神不恐人	500	
10-2-5	憲法を護る戦い	501	
10-2-6	31回卒業式の辞	504	
10-2-7	卒業生に告ぐ	506	
10-2-8	忠雄先生告別の辞	507	
10-2-9	34回創立記念式	510	
10-2-10	憲法を護る裁判の報告	512	
10-2-11	信仰と行為	513	
10-2-12	33回卒業式の辞	520	
10-2-13	神に依り頼む		
	—鈴木彌美・ひろ伝道教育 50年—	522	
10-2-14	34回卒業式の辞	527	
10-2-15	第6回夏の学校開校式講話	530	
10-2-16	無教会信仰の確立		
	—石原兵永先生告別式にて述ぶ—	533	
10-2-17	弔辞—政池先生告別式にて述ぶ—	535	
10-2-18	宋斗用兄を憶う	537	
10-2-19	第38回卒業式の辞	539	
10-2-20	ネパール紀行	543	
註・X章		546	

XI 八王子内村鑑三記念講演録 553

11-1	内村先生と東京大学	555	
11-2	無教会のあり方	560	
11-3	内村鑑三の愛国	564	
11-4	内村鑑三と矛盾	568	
11-5	内村鑑三の非戦論	575	
11-6	新しい偶像礼拝	579	
11-7	最も罪を恐れた人	583	
11-8	唯一の真の宗教	587	
11-9	無教会の陥り易い過ち	590	
11-10	イデオロギー論の誤り	594	
註・XI章		598	

XII 「友和」に発表された文章 605

12-1	アメリカ市民に訴える	607	
12-2	自分を義とするな	608	

12-3	就任挨拶	610
12-4	非武装防衛論	611
12-5	IFOR へのメッセージ	613
12-6	開会礼拝	614
12-7	軍備で国は護れない (憲法を護る裁判の報告)	615
12-8	憲法を護る裁判の報告 (二)	623
12-9	公開状「総理大臣中曽根康弘閣下」	626
12-10	公開状「総理大臣中曽根康弘閣下」二	627
12-11	憲法を護る裁判の報告 (三)	628
12-12	憲法を護る裁判の報告 (四)	632
12-13	年頭所感	635
12-14	政池前理事長を悼む	637
12-15	軍事費納税拒否裁判 (一)	638
12-16	軍事費納税拒否裁判 (二)	642
12-17	軍事費納税拒否裁判 (三)	645
12-18	全国大会開会礼拝	648
12-19	年頭の辞	650
12-20	1987 年総会 開会の挨拶	651
12-21	真理に従ってのたたかい (開会礼拝)	652
12-22	退任の挨拶	653
	註・XII 章	654

XIII 「神に依り頼む」に掲載された文章 659

13-1	政池進告別の辞	661
13-2	基督教独立学園高等学校創立式 創立の辞	664
13-3	西川たえ子告別式式辞	666
13-4	真理を愛すること — 信仰と科学	670
13-5	M 君、T さん結婚式式辞	681
13-6	村山道雄追悼の辞	684
13-7	佐藤のぶ告別式式辞	686
13-8	政池仁と私	691
	註・XIII 章	693

資料・合同国語教材一覧 696

あとがき、PDF化に際して 700

註索引 706



著者夫妻（1977年）



雪に埋もれた基督教独立学園と近景（旧講堂・旧校舎・茂松山方面）

【 註・序言と目次 】

- (1) 内村鑑三（1861 ~ 1930）、宗教家・評論家。本書の著者・鈴木弼美の信仰の師。高崎藩士の子として江戸で生まれた。1877年に札幌農学校に第2期生として入学、1881年に同校を主席で卒業し、水産業の調査開発に従事した。1884年に渡米し、知的障害児の養護学校で看護人として働いたが、翌年新島襄の勧めで新島の母校であるアマースト大学に編入。そこでシーリー総長から深い影響を受け、宗教的回心を体験した。1887年に卒業し、1888年に帰国。いくつかの学校で教鞭を執った後、1890年から第一高等中学校の教員となった。1891年、教育勅語に書かれた明治天皇直筆の署名に対して内村が最敬礼をしなかったことが社会問題（不敬事件）となり、同校を退職。その後は、教会で説教をしたり、再び教員となったり、新聞に論説を執筆したりして生計をたてた。その後、1900年に日本初の聖書雑誌である『聖書の研究』を刊行し、雑誌による伝道を行った。この『聖書の研究』の発行と並行して行われていた内村の自宅での聖書講義に出席したことから、鈴木は内村の門下生となった。
- (2) よろこばしいしらせ。イエス・キリストによる救いが完成される神の国の到来を告げるよきしらせ。
- (3) 後進者が優れた先達に従って、事を成し遂げたり功を立てたりすること。
- (4) 英語のスペリングは astrology。原文表記はアストロロジイ。
- (5) (1927 ~ 2016)、本書『真理と信仰』の企画・編集の中心的存在。独立学園元理事長。矢内原忠雄の弟子。山形県内を中心に展開した「ホームセンタージョイ」を創業。社是を「正直に、親切に、勤勉に、几帳面に、人の役に立つ店になろう」とし、信仰が商売成功の秘訣と語った。強力な支援者として、何年にもわたり独立学園に資材や灯油などを利益抜きで届け続けた。
- (6) キリスト教を信じる人たちの間で呼び合う、男性への尊称のようなもの。年上の人にも年下の人にも用いる。
- (7) 独立学園第三代校長。
- (8) (~ 2000)、旧郵政省に勤務。独立学園旧理事。独立学園創立当初からの支援者であり、榎本忠雄教頭（当時）が入院中は毎月のように来校し、講師として政治経済を教えた。
- (9) (~ 1982)、1976年10月以降、度々独立学園に来校し、講演などを行った。
- (10) 各章のタイトルはPDF版作成に際してつけたもので、原書にはない。